

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 神戸元町こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 武藤 洋和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 久米 主税

【項目別自己評価表】

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、こども分野の学校として「皆から信頼・感謝され、こどもの未来を育む人材になる」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材育成」を根底に、専門学校として社会・業界に求められる人材育成を同時に進めている。

学校スローガンとして「神戸に新しい風を！」と掲げ、新設校として神戸を盛り上げていきたいという想いをもち地域に根付いた学校となるよう努めていく。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

元気な挨拶・正しい言葉遣い・積極的美化を強化

授業アンケート「先生の授業を後輩に進める」を分野平均点以上

退学者 8%未満

① 振り返り

・退学率は昨年度8.1%であった。今年度はさらに退学率減少を目指し取り組んでいく。

・授業アンケートの神戸校として一番大切にしている、「先生の授業を後輩に進める」項目を先生方に強く意識していただけるように取り組み、今年度は授業見学も頻繁に行っていく

② 学校関係者評価委員コメント

新設校として初めての1年であった。

今年度は、昨年度の反省を踏まえた上で2年目として神戸の基礎をしっかりと築いていってほしい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

人材育成像を掲げるものの、年数回の全体会議のみでの発信になり、殆ど意識することが出来ない状況で年度を終えてしまった。

② 今後の改善方策

ポスター等を校内に掲示し、「見える化」を図り、常に意識させる取組みから、目指す人材像の促進化を図る。

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・現場に必要な力は、計画的に言われたことをコツコツ出来る人が必要と言われる。

また、新入社員に求めるものとして、元気な挨拶と素直な心を持っていることが非常に重要である。

・未来デザインプログラムの授業において、リアルな社会人としてのシミュレーションを行っており、在学中に考える力がみについている。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

多岐に渡る校務分掌がある中、質の向上を目指したいが、慢性的なマンパワー不足と人材育成の停滞が課題

② 今後の改善方策

積極的な卒業生採用と、OJT・OFF-JTによる育成システムの構築

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

- ・新人育成には、研修の充実化が欠かせない。入社してすぐの研修以外にも、長い期間で研修を行うことも重要。
- ・新人以外にも、中堅社員がどのように成長し役割を担っていくかによって、下につく後輩達の成長の度合いがかわっていく。よって、中堅社員のレベルアップも行わなければならない。
- ・ぼけっとランドでは三幸学園の卒業生が、現場で活躍をしており卒業生採用を積極的にも取りいれていく。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	②	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

開校1年目ということもあり、関連分野との関係性がまだ構築出来ていない。

② 今後の改善方策

業界との繋がりが持てるよう、講師派遣やインターンシップ以上の関係性構築が必要である。

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

- ・神戸校は、学生も地元出身者が多く地域に根付いた関係性を作っていく必要がある。
- ・取り組みの例として、保育発表会を近隣の幼稚園保育園にアプローチする。園で独自に行っている行事のボランティアを学校として学生を斡旋。幼稚園と近隣住民と学校で学校の校舎を使用して、夏祭りを行うなど、園としても学校との連携は嬉しい事であり、学生の教育レベルの向上も図れる。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	②
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	①

① 課題

資格取得率の更なる向上

卒業生との関係構築

退学者の低減

② 今後の改善方策

資格取得⇒教科会の定期開催

退学率⇒数値目標の設定や、退学事前報告会等の開催

③ 特記事項

全国展開しているグループ校との連携により、資格取得に向けた傾向と対策を実施

同じように退学率低減についても教育開発部が主導となって、退学者への様々なアプローチを実施し

低減に努めている。

【委員会コメント】

退学に関して、QU アンケートで入学当初取った際に退学危険者として出た生徒は、実際に後々退学するといったデータが出た。そのようなアンケートを活用して、退学を防止することも可能ではないか。

卒業生の保育感が合わないと辞めていくケースが目立つ。自分が就職先に合わずが出来ず、自分の感情のみ優先し、多様なものを受け入れる力が減少している。

保育感とは何かということ、まずは就職斡旋する担任が理解する必要がある。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	②
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

様々な学生が入学をする中(18歳～48歳)すべてにおいてのフォローアップ体制が整いきれていない。
卒業生への支援を今から発信していかなければならない

② 今後の改善方策

支援体制の仕組化と、特に卒業生との繋がりを支援していく
「同窓会 Sanko-Link」の活用と活性化

③ 特記事項

就職指導については、クラス担任と就職エリア担当のダブルサポートシステムを実施し、内定獲得まで導く体制作りをしている。

【委員会コメント】

- ・同窓会 Link を各エリアで立ち上げてはいるが、非常に多くの卒業生が多く出ているにもかかわらず、まだそのネットワークを活かしきれていない。
- ・卒業生のネットワークを固めるにあたって、学園として同窓会専門の部署を立ち上げてもいいのではないかと。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

施設・設備の更なる整備が課題

② 今後の改善方策

環境改善に向けての周知と、迅速な対応を行う

③ 特記事項

神戸校全教室にPCプロジェクターが設置されている

【委員会コメント】

・学校内に保育園か幼稚園があれば、養成校の強みとなり、教育環境としても現場のリアルな姿を見続けることが出来る。保育者を生で見える事は、緊張感もあり非常に良い。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

定員充足率を100%にする

② 今後の改善方策

広報活動の更なる強化！

③ 特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる併せて、関西・広島広報室からの支援も受けて募集活動に取り組んでいる

【委員会コメント】

・オープンキャンパスでの在校生の動きやフォローが良く出来ており、学生スタッフの意識が非常に高い。教員が若い人が多い分距離の近さを非常に感じる事が出来る。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	③	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	①

① 課題

自己評価で浮き彫りになった課題に対して迅速に対応しきれてない

② 今後の改善方策

まずは自己評価の実施ならび公開を行い、職業実践専門課程認定に向けた動きを意識することで、浮き彫りになった課題を解決していく

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・特に問題ない

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

教育訓練受託等が申請出来ていない
地域住民への学校開放等が殆ど出来てない

② 今後の改善方策

生徒募集の観点からも教育訓練生の受け入れを積極的に行う
子育て支援等で地域住民との関係性を図る

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・地域との連携したイベントを行うことで、地域に根付いた学校となり、また学生の学力向上にもつながる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1年かけて築き上げてきた基礎をさらに固める1年としてほしい。今年は、神戸校として初めての卒業生がでることや実習に行かせていただく機会も増え、保育園・幼稚園等の関係性を強めていくことに力を入れることを期待している。特に神戸は、近郊エリアからの入学者も多いこともあり、こどもイベントなどを開催し学校の近くの園や近隣住民との関わりが増えることで学生の教育効果も期待できる。
次年度のさらなる神戸校の発展を期待している。